

ハートだより

香川県立高松支援学校
人権・同和教育部
2026年9月30日発行
第62号



「平和の原点は、ひとの痛みがわかる心を持つこと」



校長 笠井 幸博

終戦から81年目となる今年の8月15日に、広島平和記念資料館に行ってきました。ここを訪れるのは、中学校の修学旅行以来でした。東館1階からエレベーターで3階まで上がり、展示はまず、被爆前の広島の様子から始まります。そこに展示されているのは、人々の何気ない日常の様子です。そして、8月6日の展示へと向かう最後の展示が、小学校の教室から笑顔を見せている児童と担任の先生の写真でした。どこにでもあった日常の光景、それが「8月6日の惨状」の展示から様相が一変します。

原爆の被害、惨状とはこれほどだったのかと改めて思い知りました。8月6日を境に、多くの人々の尊い命とかけがえのない日常が、一瞬にして奪われました。尊い命とかけがえのない日常を一瞬にして奪ってしまうこの暴挙、この理不尽さを思うと、このようなことは絶対にあってはならないし、また、二度と起こしてはならないと思わずにいられませんでした。

長崎市の鈴木史朗市長が、今年の8月9日に長崎市で行われた平和祈念式典で、平和宣言を読み上げました。その中で、13歳で被爆し、その後、被爆体験を語る活動を続けた吉田勝二さんの言葉を引用しました。その言葉とは、「平和の原点は、ひとの痛みがわかる心を持つこと」。吉田さんが被爆体験を語る時、いつも伝えていた言葉です。

平和の原点という大きな捉えでなくても、私たちが日々、相手の思いや立場に心を寄せ、分かり合おうと努力をすることの積み重ねが、人と人とのよりよい関係を築く第一歩になるのではないのでしょうか。高松支援学校の児童生徒が相手を思いやり、相手のことを大事に思う気持ちを持ち続け、これからもよりよい人間関係を築いていってくれることを願っています。

掲示板のお知らせ

医ケア室前の廊下には人権・同和教育部の掲示板があります。人権に関する話題やポスターなどを貼っています。ぜひご覧ください。



音楽の時間より

小学部5・6年生が、音楽の時間に「**それもいいね**」を表現しました。Eテレ「ザ・ウェイキー・ショウ」のエンディング曲で「**それぞれのちがった価値観を認め合おう**」という気持ちが込められています。子ども達はこの曲が大好き。笑顔いっぱい表現しました。



【歌詞の一部】

どんどんのめりこんでいくこの世界は
だれもが人それぞれ
どんどんのめりこんでいくこの世界は
摩訶不思議ばかりだから
ちがっていても それもいいね

高松市人権作品展 出品作品の紹介

高松市人権作品展は、12月4日(金)～8日(火)、市民交流プラザ IKODE 瓦町（瓦町 FLAG8階）にて開催されます。



小学部5年 平井佑磨



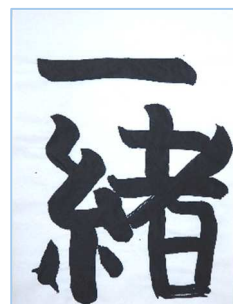
中学部 3年 海翔



高等部3年 小野村 栞



高等部3年 新里壮琉



高等部 3年

田村文化センター研修(8/21)に参加して

小学部 小野坂 怜音

人権・同和教育研修を通して、部落問題がなぜ生じるようになったのか、その歴史的背景について学ぶことができました。また、部落問題は過去の問題では無く、現在も続いている人権問題であることを改めて認識しました。

これまで、住んでいる地域によって差別を受けたり差別的な言葉を掛けられたりするなどの直接的な差別については知っていましたが、現在では、SNS を通した差別的な情報の拡散や就職・結婚などの場面において、本人の能力や人柄とは関係ない出身地などを理由とした差別が行われていることがあると知り、差別の形が時代とともに変化していることに気付きました。教員として、これから児童生徒に人権教育を行っていくうえで、まずは自分自身が正しい知識を身に付け、偏見や思い込みにとらわれずに人権問題について考えることが大切だと感じたので、児童生徒とともに正しい知識を学び、話し合うことを大切にしていきたいです。



<第73回四国地区人権教育研究大会（7/2、3）に参加して>

【進路保障】人権教育・啓発を進める上で、目の前にある課題だけでなく、その背景にある環境や本人の思いを理解、想像することが重要だと学びました。

一人ひとりの違いや多様性を尊重し、日々の関わりの中で小さな変化にも気づける姿勢を大切にしていきたいです。

また、個を支えるための集団づくり、そしてそこから個の成長、自立を促していくような取り組みは、特定の場合に限らず、全ての現代人にとって必要なマインドではないでしょうか。

PTA役員 三步勝司 中村 直子



【自主活動】高松桜井高等学校の「自由に生きる」の発表について、性別に違和感のある生徒 B のカミングアウトや意欲的な行動力が徐々に周りの生徒たちに良い影響を及ぼし、学校全体で性に対する認識が変化していく様子が伝えられました。このような生徒を支えるために、多様な価値観を認め合う環境を学校全体で整えることが重要であると感じました。

人権・同和教育部 岡田莉央

中高ABコース人権学習 出前講座(9/16)



香川県国際交流員のサミュエル・ピーターソンさんから、アメリカの文化やバリアフリーなどについてお聞きしました。サムさんのふるさとのミネソタ州の景色や食べ物も興味深かったです。復習のビンゴ大会もあり楽しく学びました。